

序文（文明の創造）

此著は歴史肇つて以来、未だ嘗てない大著述であり、一言にしていえば新文明世界の設計書ともいふべきもので、天国の福音でもあり、二十世紀のバイブルでもある。というのは現在の文明は真の文明ではないので、新文明が生れる迄の仮の文明であるからである。聖書にある世の終りとは、此仮相文明世界の終りを言つたものである。又今一つの“ 治く天国の福音を宣べ伝えらるべし。然る後末期到る ”との予言も、此著の頒布である事は言う迄もない。そうしてバイブルはキリストの教えを綴つたものであるが、

此著はキリストが繰返し曰われた処の、彼の天の父であるエホバ直接の啓示でもある。又キリストは斯うも言われた。『天国は近づけり、爾等悔改めよ』と。之によつてみれば、キリスト自身が天国を造るのではない。後世誰かが造るという訳である。

処が私は天国は近づけりとは言はない。何となれば最早天国実現の時が来たからである。それは目下私によつて天国樹立の基礎的準備に取り掛っており、今は甚だ小規模ではあるが、非常なスピードを以て進捗しつつあつて凡てが驚異的である。それというのも一切が奇蹟に次ぐ奇蹟の顕

はれで、人々は驚嘆している。そうして之を仔細に検討して見る時、神は何万年前から細大漏す処なく、慎重綿密なる準備をされていた事である。之は明瞭に看取出来るが、其根本は旧文明の清算と新文明の構想にあるのであって、私はそれに対し實際を裏付とした理論を、徹底的に此著を以て説くのである。そうして先ず知らねばならない肝腎な事は、旧文明は悪の力が支配的であつて、善の力は甚だ微弱であつた事である。処が愈々時期来つて今度は逆となり、茲に世界は地上天国実現の段階に入るのである。然し之に就いては重大問題がある。というのは旧文明は当然清

算されなければならないが、何しろ世界は長い間の惡の堆積による罪穢の解消こそ問題で、之が世界的大淨化作用である。従つて之による犠牲者の数は如何に大量に上るか
は、到底想像もつかない程であらう。勿論之こそ最後の審判であつて、亦止む事を得ないが、神の大愛は一人でも多くの人間を救わんとして私という者を選び給い、其大業を行はせられるのであつて、其序曲というべきものが本著であるから、此事を充分肝に銘じて読みたいのである。

そうして右の如く最後の審判が終るや、愈々新世界建設の運びになるのであるが、其轉換期に於ける凡ゆる文化の

切換えこそ、空前絶後の大事変であつて、到底人間の想像だも不可能である。勿論旧文明中の誤謬の是非を第一とし、新文明構想の指針を与えるものである。それを之から詳しく説くのであるが、勿論之を読む人々こそ救いの綱を目の前に下げられたと同様で、直に之を掴めば救はれるが、そうでない人は後に到つて悔を残すのは勿論で、時已に遅しである。以上の如く罪深き者は亡び、罪浅き者は救はれて、将来に於ける地上天国の住民となり得るのである。そうして来るべき地上天国たるや其構想の素晴しさ、スケールの雄大さは到底筆舌に尽せないのである。其時に

到って現在迄の文明が如何に野蛮極まる低劣なものであつたかがハッキリ判ると共に、人類は歡喜に咽ぶであらう事を断言するのである。